

令和元年度 奈良市母子保健推進会議の意見の概要	
開催日時	令和元年7月19日（金）午後2時から午後4時まで
開催場所	奈良市保健所・教育総合センター3階健康増進室
意見等を求める内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良市母子保健計画の中間評価及び今後の取り組み ・ 母子保健事業における課題
参加者	出席者9人 ・ 事務局12人
開催形態	公開（傍聴人2人）
担当課	奈良市健康医療部母子保健課
意見等の内容の取り纏め	
事務局による概要説明の後、出席者に意見等を求めた。	
<p>《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》</p> <p>1 奈良市母子保健計画の中間評価及び今後の取り組み</p> <p>▶ 基盤課題A「切れ目のない妊産婦・乳幼児保健対策」</p> <p>飲酒・喫煙については、妊娠初期より後期になるにつれて意識の低下が見られるため、行政だけでなく関係機関で引き続き啓蒙していく必要がある。歯科保健に関しては、地域子育て支援拠点施設を利用する保護者は意識が高くなっているため、各拠点施設での教室実施だけでなく母子保健課で随時相談可能である旨の情報がより浸透すると良いと思われる。拠点スタッフへの指導も引き続き実施してほしい。</p> <p>▶ 基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」</p> <p>性教育については、思春期前期からの実施が有効である。学校現場では小学校から「自分を大切にする」ために、喫煙・飲酒・薬物等も含めた教育を実施している。それと同時に、家庭での性教育も重要である。生活習慣については、肥満予防・学習・健康管理の効果向上のためにも基本的な生活習慣を整えることの大切さについて指導をしている。</p> <p>▶ 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」</p> <p>▶ 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」</p> <p>地域子育て支援拠点施設としては、利用者のなかには、子育てに対してしんどさを感じている保護者や、完璧に子育てをしなければいけないと思いつめている保護者が多いように感じている。</p> <p>乳幼児健診の間診票で「ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間があるか」と尋ねているが、健診場面ではすべての項目に目を通すことが時間的に難しく、じっくりとそれについて聞くことが出来ない現状もある。間診項目や回答欄の配置の工夫をする必要がある。</p> <p>レスパイト入院施設については、数は増加しているが必要とする人に対して供給が十分ではない。きょうだい児を育てながら介護する保護者も多く、家族の負担が大きいことを知っておいてほしい。</p>	

▶ 重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」

特定妊婦を把握すると各関係機関で連携し合い支援を行う体制となっている。特定妊婦の中には知的障害や精神疾患等を持つ方もおり、ヘルパーサービスで関わる中で育児の専門でない職員が子育てについて相談されることに戸惑いがある。また、保護者に障害や疾患があっても、児に健康・発達面や生活面で問題がない場合は児に支援者がつかないため、生活や進路・素行の点で問題が生じても介入しにくい現状である。家庭としての機能が働かない場合に支援できる体制が必要である。

臨床の場で虐待が疑われる場合は、ケースによって関係機関と情報共有したり、診察時の聞き取りの様子等から対応について検討し、必要時行政と連携して対応している。

配付資料

- ① 平成 30 年度ライフステージ別母子保健事業一覧
- ② 奈良市母子保健事業実施体制